

持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議 2025

コンセプトペーパー

テーマ：将来の学術を担う若手研究者を中心とした研究力強化と頭脳循環を目指して

目的：

近年、我が国の研究力の低下について多くの懸念が表明されている中で、研究力を強化していくためには、将来の学術を担う主体となる、若手研究者の活躍が必須である。しかしながら、昨年度の「持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議 2024」でとりあげたとおり、若手研究者をとりまく環境は厳しい状況にある。中でも、キャリアとしての研究者の魅力の低下は、研究の担い手の減少に直結しうる課題と言える。我が国が国際的に遜色のない研究力を発揮していくためには、海外の第一線の大学・研究機関で活躍している研究者をロールモデルとして、こうした研究者がこれまでの活動から得た知見やそれに基づく提案を共有し議論を深めていくことが、志のある若手研究者の育成にとって効果的であると考えられる。

他方で、世界に目を向けると、気候変動を始めとして地球規模の課題が山積しており、国際交流や国際共同研究の機会は増大の一途をたどっている。国際頭脳循環という言葉が示すとおり、科学者の活躍のフィールドは一国にとどまらない状況であり、国際的な高度人材獲得競争が激化している。そのため、我が国の研究力の強化に向けては、我が国固有の事情にとどまらず、世界規模で進行している国際頭脳循環の動向も十分に踏まえた上で、戦略的な研究人材の派遣や受け入れ等の対応が求められる。

概要：

今回の「持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議 2025」においては、将来の学術を担う若手研究者の研究力強化と国際頭脳循環の促進を2つの中心テーマに据え、基調講演やパネルディスカッションを行う。2つのテーマは相互に関連するも

のであり、統合セッションにおいてそれぞれの議論から得られた知見を集約し、会議として一定の方向性を導くことを目指す。

① 若手研究者の研究力強化

海外拠点でPI（Principal Investigator：研究責任者）として活躍中の日本人並びに外国人研究者を招き、こうした研究者の経験を共有しながら議論を行う。そして、学部生・院生・ポスドクが海外で研究体験や自身の研究の進めるための様々な支援策やプログラムのあり方を探る。

また、海外での研究成果やネットワーク形成がその後キャリアパスに肯定的に働くようなインセンティブや評価制度、これまでの雇用慣行や給与・昇進システムにとらわれない柔軟な雇用体系等、日本人若手研究者が海外で研究に専念することを後押しするための制度改革についても議論を深める。さらには、世界の教育拠点に日本から優秀な人材を送り込み、日本との間を行き来する方策についての検討を深め、海外での日本人研究ネットワークの構築や強化も見据えた議論を行う。

② 国際頭脳循環の促進

欧米等、国際頭脳循環のハブとなっている国々から日本人並びに外国人の研究者を招き、受け入れ側の視点等も交えた国際頭脳循環の動向に関する見解を披露していただく。

これを受け、世界的な学術の動向を踏まえた国際頭脳循環のあるべき姿及び我が国としての貢献策について議論するとともに、我が国が世界から優秀な人材を引きつけるための方策についても検討を深める。

なお、社会課題の解決やイノベーションの創出には、分野やセクターを超えた連携・取組が要求されることから、大学や研究機関にとどまらず、政府関係機関や産業界等の多様なステークホルダーからの知見を広く求めるものとする。